

各地の自然災害で被災された方々、戦禍の中にある方々に、心からお見舞い申し上げます。  
神様の慰めと助けがありますように、お祈りしております。

暑さの続く日々 秋は近づいてくるだろうかと思う

## 世界食料デー宝塚大会

～私から始める、愛のChain Reaction(連鎖)～

貧困や飢餓や紛争などの「負の連鎖」を断ち切って、一人一人の行動から始まる「愛の連鎖」を広げていきましょう。

10/19(土)14:00～15:30 募金があります



基調講演: 安達 燎平

2013年JFH主催のルワンダツアーに参加し、海外支援団体の働きに感銘を受ける。2018年4月ハンガーゼロに入職し、現在は広報の働きに従事。2018年西日本豪雨災害緊急支援、2022年ウクライナ難民支援として現地に派遣され、支援活動を行う。



現地報告: ジェローム・カセバ

2012年、国際基督教大学大学院を卒業。2013年、ハンガーゼロよりコンゴ民主共和国に派遣。パートナーNGOとして、現地法人(ハンズ・オブ・ラブ コンゴ)を設立し、飢餓・貧困に苦しむ方々への支援を行っている。

ミニコンサートもあります。  
大森花さんによるソプラノの歌声をお届けします。

## 工藤篤子賛美コンサート

今年も、木管楽器のような、やわらかく深みのある工藤篤子さんの賛美を、野田常喜さんのピアノでお楽しみください。

ライブ配信も行います。ホームページからご視聴いただけます。

10/27(日)15:00～16:30 入場無料



工藤篤子(地中海ソプラノ)

札幌大谷短大音楽科卒業後、同短大音楽専攻科・研究科修了。1983年、マドリード国立高等声楽院に留学。1987年、スペイン・ヤマハコンクール一位、ONCEコンクール二位。声質は地中海ソプラノで、オラトリオのソリストとして活躍。2000年、賛美伝道団体「工藤篤子ワーシップ・ミニストリーズ」設立。



野田常喜(ピアノ)

大阪音楽大学音楽学部ピアノ科卒業。京都に生まれ、演奏活動の他、レコーディング・アレンジ・作曲、音楽家のサポートにも力を注いでいる。ジャンルを超えた音楽性と心に深く語りかける瑞々しいピアノの音色には定評がある。コロナ禍で作曲したオリジナルピアノ曲をYouTubeチャンネル「名もなきピアニスト」で紹介。



## 守ってくださる主

私たちの人生には、山あれば谷もあり、楽あれば苦もあります。突然、思いがけない災いが降りかかってくることもあります。しかし、私たちを愛して下さる神様は、私たちが試みによって損なわれたり、つぶされたりすることを許されません。聖書にこのようにあります。

「見よ、イスラエルを守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。主はあなたを守る方。主はあなたの右手をおおう陰。昼も、日があなたを打つことはなく、夜も、月があなたを打つことはない。主は、すべてのわざわいからあなたを守り、あなたのたましいを守られる。」(詩篇121篇4-7節)

神様は、決して私たちを甘やかさずはされません。時には厳しい試練をお与えになることがあります。しかしそれは、神様が私たちを我が子として扱おうとして下さるからです。親は、我が子が高熱でうなされれば、夜も寝ずに看病します。我が子が危険に

さらされると知れば、なんとしてでも守りません。神様も同じです。

神様は、そのひとり子キリストを十字架におかけくださるほど、私たちを愛してくださいました。私たちは、罪のために滅び行く者でしたが、滅びなくてもよいように、キリストが身代わりに命を捨ててくださいました。私たちは、自分の罪を悔い改め、キリストの十字架が自分の罪のためだったと信じれば、どんな罪でも赦され、救われます。そのように救ってくださった私たちを、神様が責任をもって守ってくださらないはずがありません。

ただ私たちが、その神様に信頼して、おゆだねするかどうかです。神様が守ると言われるのに、私たちが疑ったり、信じなかつたりするのなら、神様は、どんなに悲しまれるでしょうか。我が子の看病をする親でも、疲れると、うとうとします。しかし神様は、まどろむことも、眠ることもなく私たちを守って下さるのです。この神様に、安心して身をお任せしましょう。

### 教会からのオススメの一冊

#### 『『キリストさん』と呼ばれて』

九州キリスト災害支援センター・編 (いのちのことば社発行)

2016年4月14日夜、熊本県と大分県を最大震度7の大地震が襲いました。発生直後から、あるクリスチャンのボランティア団体が活動を始めました。県内の教会ネットワークを母体とした「九州キリスト災害支援センター」(通称、「九キ災」)です。

今回ご紹介する『『キリストさん』と呼ばれて』は、その「九キ災」の活動をまとめた一冊です。本書は、この活動



に関わった方々による体験記が綴られており、それぞれの立場で地震の被害の状況や、そこから立ち上がり、救援や復興へと繋がっていく様子が描かれています。それぞれの体験記を読んでい

ると、ここぞという場面で聖書の言葉が登場します。人は、困難な事態に直面するとき、その真の姿が見えると言われます。しかし、聖書の言葉を愛するクリスチャンは、そのような時に、聖書の言葉によって進むのだとわかります。彼らの体験を通して、聖書の言葉が、いかに人を力づけ、慰め、勇気づけるかを垣間見ることができます。聖書の言葉には、人の心の奥に届き、不安や恐れから解き放ち、安心や希望を湧き上がらせる力があるのです。

あれから8年が経つ今、各地で地震が起こり、南海トラフ巨大地震の危険性も叫ばれるようになりました。いざという時のために備えが必要だと、あちこちで喚起されています。ですが、どんな備えにも優つて、聖書の言葉によって心を備えることの大切さを感じずにはおれません。

## 宝塚栄光教会

牧師: 岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com https://www.takara-eikou.com



礼拝 毎週日曜日  
10:30～11:40

希望のダイヤル(聖書のお話)  
0797-77-3746  
毎週更新。24時間つながります。  
ホームページからも利用できます。

わたしたちは世界平和統一家庭連合(旧・統一協会)、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なプロテスタントのキリスト教会です。お困りの方はご相談ください。



「ヤマラッキョウ」 — やしま 八島湿原にて —

山の短い夏景色は 間もなく秋へと移っていく

日本の高層湿原の南限になる 長野県の八島湿原は  
古い歴史を持つ湿原で 美しい花にあふれている  
標高1632m そろそろ肌寒さを覚えるようになった

他の花が枯れ始めた頃から 咲き始めるのが  
ヤマラッキョウの花だ  
比較的湿潤な草原や 湿原に生えている 湿原の花である  
食用のラッキョウと同じように 秋に花が咲くことから  
ヤマラッキョウと 名前がついたようだ  
細長い葉から 少しニラのおいがする  
秋の草原を彩る花のひとつで リンドウなどと一緒に  
晩秋まで咲いている

花茎は 30～60cmに立ち上がり  
細い花茎の頂きに 紫紅色の6弁の小さな花を集めて開く花  
小さな花びらの中から 雄しべが飛び出ている  
花は 直径3cm程で 小さい花である  
この花が咲き終わる頃 山ではもう花は見えなくなるという  
見る者たちを楽しませてくれる花を いとおしく思うこの頃である

人は皆 草のようで  
その華やかさはすべて 草の花のようだ  
草は枯れ 花は散る  
しかし 主の言葉は 永遠に変わることがない